

第1回A地区事業推進チーム会議（7月28日）の概要

出席者 A地区居住者等 14名

茅ヶ崎海岸グランドプラン推進会議／折原代表、益永副代表、岩本委員、
片岡委員

茅ヶ崎市企画調整課、海浜課、コンサルタント

議題 1 茅ヶ崎海岸グランドプランにおける理念、将来像について

2 土地利用の考え方について

3 その他

概要

中間報告書案の第5章及び第6章を資料として、現在までの経過を説明した。（ただし、第6章のB地区の模型写真は、第1案として公園等として利用した場合、第2案として3層の共同建築物を建設した場合の2例を掲載したものを資料とした。）

主な意見は次のとおり

- ・土地利用方針に「転売抑制」とあるが、国がそういうことを認めるのか？そういうことができるのか？
- ・代が変わると考え方が変わることがある。転売できないことが逆に環境の悪化につながるのか。財産への手入れが行きとどかなくなり、転売せざるを得ない状況がでてくることも考えられる。
- ・グランドプランの前に、都市計画で地区計画を決定している。自分たちで考え、厳しい条件をつけた。それ以上の規制を外から言うのは納得できない。
→緑化の方針、建物の形、色などの規制等が考えられる。
- ・すでに居住している者がいて、払下げも決定している。今までに示された資料は、関係者を除外している。住んでいる人のことを考えてほしい。
- ・すでにある地区計画を基準に考えてもらいたい。
- ・もともとA地区がグランドプランの対象になるとは考えていなかった。
- ・旧フィッシュセンター跡地に高層マンションができるから反対した。高層マンションは地域文化を否定している。低層マンションなら反対しなかったかもしれない。
- ・漁業は地域文化である。ないがしろにしてほしくない。魅力あるものにしたい。

- ・地引網の将来は厳しいかもしれないが、遊漁船には将来がある。
- ・払下げすれば自身の財産として処分もできると役所に言われたが、今度は転売禁止と言われ、話が変わっていく。
- ・広く市民の声を聞けばそれが優先され、A地区の一人一人の声は消されてしまう。
- ・50年住んでいる人のことを聞かず、陸の人間の声ばかりだ。自分たちの意見をどこまで聞いていくくれるのか。
- ・少なくともA地区は、このままの状態を守って行きたい。
- ・払下げ後、転売して好き勝手なことをされたら困るから地区計画を自ら決めた。部外者は勝手なことを言っている。
→地区計画があるけれども、不穏な動きがでそうな気がする。
- ・この地域に必要なものは、トイレと警察の派出所。
- ・前の市長のとき、サイクリング道路の南側に釣り船利用者のための100台程度の自動車駐車場の確保を要望した。それが認められないのならその代替を考えてほしい。
- ・サイクリング道路の南側は、出入り禁止にしてほしい。(夜間、漁港でよからぬことが行われている。車の廃棄など)
- ・公園にする話があるが、利用者がごみを持ちかえらない、片付かない。
- ・A地区の未利用地の取り扱いがどうなるのか心配。
- ・払下げの話がなければ穏やかだったと思う。払下げの話が来てからややこしくなってきた。
- ・津波に対する心配はないのか？(推進会議からの質問)
→このあたりは、海岸線の中でも比較的高い位置にあり、その北側は低くなっている。A地区が被害にあったら、市の南部も同じになると思う。すでにここに住んでいるので、そういうことは仕方がない。